

■ 若葉のころ ■

草野心平（福島県出身です！）の詩に、次のように始まる詩（「樹木」）があります。

若葉は光りと もつれあい。
くすぐりあい。
陽がかげると不思議がって きき耳を立て。 . . .



まさに今の若葉のころの樹木のように、生命力あふれる瑞々しさで表しています。ほんの二か月前までは冬枯れの裸の木々だったのに、どこにエネルギーが潜んでいたのかと驚かされる樹木たちの生命です。

その若葉ですが、「春紅葉」という言葉があるように、樹木によって若葉の色合いがかなり違うのをご存知でしょうか。ヤナギやハンノキ類はすんなりと緑が濃くなりますが、黄土色、褐色、茶色、赤色



などにまず萌え出し、以後だんだん緑に染まっていく樹木もあります。秋に紅葉する葉は春も紅葉から始まるみたいです。葉緑素以外の色素形成が関係するそうです。

葉の光合成による栄養分の自家生産が本格化するまでの間、まさに若い人の成長と同様の木々の色彩の変化を、しばし目を細めて見守りましょう。

■ こんなの見なかった？ ■

裏磐梯でよく見かける不思議なもの…さて、なんででしょう？

裏磐梯も雪が融け、新緑が楽しめる時季になりました。足元にも緑、頭上にも緑が広がり、冬とは全く違った景色を堪能することができます。

散策中に林の中を見てみると、いろんな木々が芽吹き始めているのがわかります。大木もあれば細くて背の低い木、やがて大木になるであろうという子供の木、その中にとげのついた木が見つかることがあります。裏磐梯ではあちこちで見ることができます。

さて、写真のその”とげのついた木”とは一体何でしょう？

- ①ウコギ
- ②タラノキ
- ③ノイバラ
- ④ハリギリ
- ⑤トチノキ



正解は④のハリギリという木です。ハリギリ（針桐）の葉は桐のように大きくて、とげがあるからこの名が付いたといわれています。大木になり、材は柔らかい感触であることから、下駄などに利用されたようです。新芽は食べられるそうです。

とげがあるので触るとケガをすることもあります。気を付けましょう。この他にも、とげのある木をさがしてみるのも楽しいですね！！